

順天堂大学	博士(スポーツ健康科学)	氏名	水野 基樹
論文題目	看護師の職務不満足に影響を及ぼす衛生要因の検討 (Examination of Hygiene Factors Influencing on Job Dissatisfaction among Nurses)		

(論文内容の要約) (1000字~1500字)

【目的】

近年の著しい医療技術の進歩は、人間の生命や健康の保持・増進に寄与する一方、医療技術の高度化・複雑化、疾病の多様化などにより、看護師の労働環境をよりストレスフルなものにしている。そのため、看護師の離職対策や次世代育成支援を実現させていくために、看護師が現在の職務に対して満足感(職務満足)を抱きながら働き続けることができる労働環境をデザインする必要がある。そこで本研究は、Herzberg(1968)の2要因理論を援用し、看護師の職務不満足を誘発する可能性のある衛生要因を明らかにすることを目的とした。日本の看護師は94.9%が女性であることから、働く女性を対象として研究が進められてきたワーク・ファミリー・コンフリクト(WFC)と看護師の職務ストレスを衛生要因に想定し、それらが職務不満足にどの程度寄与しているかを明らかにする横断研究を実施した。

【方法】

大学病院に勤務する女性看護師(合計1,074名)を対象に、職務不満足の評価、ワーク・ファミリー・コンフリクト尺度日本語版(WFCS)、看護師の職務ストレス尺度(NJSS)、フェイスシートを用いた質問紙調査を実施した。分析方法は、要因とアウトカムの関連性を検証するために、職務不満足得点を従属変数、WFCS及びNJSSの得点を独立変数とし、オッズ比を用いたロジスティック回帰分析(LRA)を実施した。

【結果】

職務不満足得点を従属変数、WFCS及びNJSSの得点を独立変数とするロジスティック回帰分析(LRA)を実施した結果、WFCSにおいては、時間WIF(adjusted OR=3.09)、ストレスWIF(adjusted OR=2.35)、行動FIW(adjusted OR=2.05)、NJSSにおいては、仕事の量的負担(adjusted OR=3.99)、同僚関係(adjusted OR=2.11)、仕事の質的負担(adjusted OR=2.02)、患者関係(adjusted OR=1.81)が職務不満足の高さに寄与しているという結果が示された。

【考察】

本研究の結果、日本の看護師特有の衛生要因として、膨大な仕事量(仕事の量的負担)、労働時間の長さ(時間WIF)、仕事のストレスイベント(ストレスWIF)、同僚との関係(同僚との人間関係)、職場での権限(行動FIW)、患者との関係(患者との人間関係)が示唆された。これらの要因は、2要因理論の知見と大きく矛盾しない結果であり、これらの情報をもとに職場改善を行うことによって、職務不満足が発現しない快適な労働環境を提供できると考えられた。また、衛生要因の中で企業人の最上位である「会社の政策と経営」に該当する「医師との人間関係と看護師としての自律性(医師関係)」が職務不満足へ強く影響すると予想していた。しかし、本研究はそのような影響を支持しなかった。これは、看護師が医師からの指示を受けることに対して違和感を覚えない組織文化的な土壌のもとにキャリア形成してきていることに原因の一端があるものと考えられた。組織における権限の階層性や意思決定権の脆弱さなど、いわゆる病院特有の組織文化を受容すべきであるという看護師の心理的特性が影響を及ぼしていると推察された。